

懐メロ大合唱 心に響く



SCクラブ大正琴

ボランティア最前線

〽松風騒ぐ 丘の上 古城よ独り
何偲ぶ 栄華の夢を 胸に追い
三橋美智也が歌って大ヒットした
「古城」。「みなさん、お待ちかねの
歌。歌いなれてお上手ですね」。SC
大正琴クラブの代表・前田仁子さん
(福11)が声をかける。
歌い終わるとデイス
サービス利用のお年寄

りは一斉に拍手。両手を突き上げて
「イエーイ!」と氣勢をあげ、ニコ
ニコしています。

SCクラブ大正琴の「サクラ 長田」
でのボランティア活動に同行、話を
伺いました。2月24日午後、前田代表、
山本麗子(音12)、宮崎律子(一般)、
浅田紀美子(生13)、山口延江(食9)さんの5人が参加。
この施設にはこの2年半、毎月2回、大正琴の伴奏で利
用者と楽しく歌っています。利用者は5人を見て「ベ
ストメンバーやな」。人間関係が出来上がっています。

この日は「昭和20年代の流行り歌」と題して利用者
31人と一緒に19曲を歌いました。途中、「金色夜叉」
の紙芝居、休憩をはさんで、手話を交えての「ふるさ
と」などを膝の上に手を置き、足でリズムをとって、
大きな声で歌っていました。

春日八郎の「お富さん」、大津美子の「ここに幸あ
り」、中曾宗美樹の「川は流れる」などみなさん、よ
くご存じの歌ばかり。「歌い出したら思い出すよ」。
歌詞カードを手にはるか遠い昔を懐かしむようでした。

「これは持ち歌」とマイクを取り、前に出て朗々
と歌う男性も。前田代表は歌詞カードを用意
「青い山脈の山は六甲山という説が有力」など
と各曲に短い説明を付け、世相にも触れます。
紙芝居「金色夜叉」では「来年の今月今夜のこ
の月を僕の涙で曇らせてみせる」のヤマ場では
皆さん、ちょっぴり、しんみ
り。熱海の海岸で婚約者のお
宮に裏切られた間寛一のセリ
フです。「私、もう少し顔がよかっ
たらいいんやけど」に「そんなん、
わかっとる」。「ええ、どういう
意味」に「決まっとる。ええ女や」
と男性が切り返す。漫才の掛け合
いのように。大正琴のスタッフとお
年寄りが寄り添い、あっという間



サクラ 長田のデイスサービス利用者

の90分。「また来てね」「また来るよ」で終了しまし
た。施設の管理者、金城浩子さんは「午前中はリハビ
リ。午後は外部講師を招いてのレクレーションが中心。
大正琴の人気は高く、大変助かる」と話していました。

クラブ員12人、月に10回活動

SCクラブ大正琴 平成24年結成。クラブ員12人。高
齢者福祉施設やデイスサービスへの友愛訪問、小学校な
どで出前教室を開いている。月に約10回活動。

大正琴は、大正時代に流行った日本の家庭楽器。哀
愁味を帯びた音色、響きが特徴。木製の中空の胴に、
2〜12本の金属弦を張り、簡単な鍵盤を備える。鍵盤
を左手で押さえ右手のピックで弾く。初心者でも取り
組みやすい。
(取材、写真 広報・永野知己)